

West Moreton Anglican College 訪問

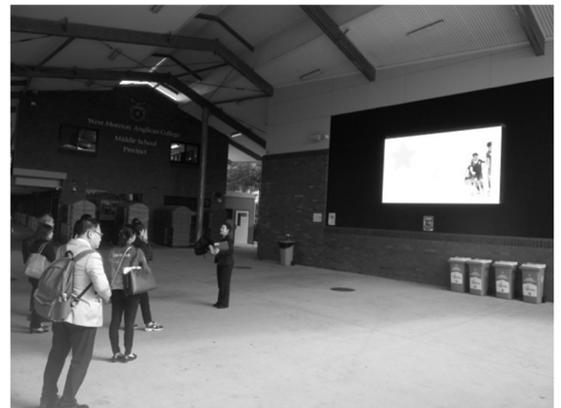
宝仙学園高等学校 探究科主任 米澤 貴史

1 はじめに

私立学校教員海外研修団は、2024年9月5日、視察先である West Moreton Anglican College を訪問した。視察の目的は、同校が進めているテクノロジーと ICT プログラムの導入状況、教育環境の現状、今後の課題を把握することである。

2 学校（施設）概要

Weat Moreton Anglican College (1994年開学) は、オーストラリア・クイーンズランド州ブリスベンから西へ 40Km ほど離れたイプスウィッチに位置し、豊かな自然環境と東京ドーム3個分の敷地に小学校から高校まであり、幅広いカリキュラムを提供している学校である。敷地内には温水プールの他にテニスコートやホッケー場・チャペルなど充実した教育施設を有している。また、日本との繋がりが深く、長期・短期の留学生を受け入れており、日本には姉妹校もある。



スクリーンに生徒達の活躍を紹介

3 教育環境

15年以上前から ICT を活用した教育に力を入れており、2011年には Y11(高2) および Y12(高3) の生徒に iPad を導入するなど、先進的なアプローチを取ってきた。小学校3年生からは PC を使った授業が行われていたが、Y3の児童全員が PC を利用できるわけではなく、使用の順番待ちが発生するため、集中力が途切れることも課題としてあげられていた。2018年には Y7以上の学年で BYOD (Bring Your Own Device) を導入し、教員や生徒が使用する学校専用のマネジメントソフト「Nest」も学校独自に開発され、教育の効率化が進められていた。

(1) 生徒たちの様子

視察時に見られた生徒たちは、ICT を活用し、自分のペースで学びを進めていた。また、すべての学習が ICT に頼るのではなく、従来型の学習(紙やペン)も残しており、各教員がバランスよく学びを進めている印象であった。

(2) 課題

Y3の生徒たちは PC の順番待ちが発生し、集中力が途切れるケースも見受け

られた。中学校の生徒たち（Y7～Y9）については、特に集中力の維持が課題となっており、モニタリングの強化が求められていた。

(3) 今後の方針

現在、小学校低学年（Y3～Y6）における PC の導入状況には限界があるようで、すべての授業で PC を利用する必要がないと判断されていた。しかし、中学校（Y7～Y9）の学年では、2026 年以降 BYOD を廃止し、学校側から提供される PC を使用する方法に変更される予定である。この新たな管理体制によって、教員が生徒の学習状況をリアルタイムでモニタリングし、集中力を維持しながら学習を進めることが期待されていた。

4 トピックス

学校は今後、生成 AI の活用とそれに伴う学習評価方法の見直しを検討しており、現在、AI を使った課題の回答が見られるため、生徒の学習機会が失われる可能性がある。そのため、AI を活用した新しい評価方法を取り入れ、より実践的なケーススタディを用いた学習に移行していく予定である。



高校の授業 デバイスも使いながら



集合写真

5 おわりに

視察を通じて、学校が積極的にテクノロジーを導入し、未来の教育環境を構築しようとしている姿勢が強く印象に残った。また、生成 AI の導入に伴う教育評価の新しいアプローチや、ICT を利用した学習環境の強化について、今後の進展が期待される。これらの取り組みは、グローバルな教育の中で重要な役割を果たすのではないかと感じた。

参考：<https://www.wmac.com.au/>